

令和5年度 学校評価結果報告書

学校番号	41
学校名	弘前実業高等学校
課程	全日制の課程

自己評価実施日	令和5年12月15日(金)
学校関係者評価実施日	令和6年1月31日(水)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成

学校評議員会(5名)
地域産業界(3)
元本校職員(1)
元本校保護者(1)

(1) 学校教育目標	本校は、商業、家庭並びに体育に関する学科を有し、専門的な学習や実践的な活動を通して、人間性豊かで、社会に貢献できる人材の育成を目的とした男女共学の総合専門高等学校である。各学科において、それぞれの特色を十分に発揮するとともに各学科の連携による幅広い視野を育成し、部活動や資格取得等に励み、「歩歩清風」を礎としながら多様性を認め協働する力を培い、生徒一人一人のあらゆる可能性を陶冶させ、生涯を通じて「生命(いのち)と価値(ねうち)」を探求する人間の育成を目指す。
------------	--

(2) 現状と課題	本校生徒の多くは専門的な知識の習得に励むとともに、部活動にも精力的に取り組み成果を上げている。その一方で、生徒は様々な分野に高い潜在能力を秘めているが、現状に満足して能力を十分に発揮できていない状況も見られる。生徒一人一人をしっかりと把握して意欲・能力を引き出すために、各学科及び各教科の横断的な指導や個々に寄り添った個別最適な指導が必要である。生徒の持てる能力を十分に引き出し伸張させるため、全教職員の共通理解と連携のもと、創意工夫のある教育活動の充実を図りたい。
-----------	---

(3) 重点目標	1. 授業第一主義を掲げ、学習に取り組む主体的態度の育成及び基礎学力の定着と向上を図り、有益な各種検定や職業資格の取得を目指す。 2. 自らを律することのできる自律心や郷土への愛着心を育み、地域を支え振興・発展させる人材を育成するための教育活動を推進する。 3. 個々の生徒の資質・能力・適性の伸長を図りながら、進路目標達成のため進路指導体制の強化を目指す。 4. 礼節を第一に重んじ、多様性を尊重し、他者と協調して生きる態度や困難を克服する逞しさを身に付けるため、部活動の更なる活性化を図る。
----------	--

(4) 結果の公表	学校ホームページでの公表
-----------	--------------

自己評価		学校関係者評価				
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	(1) 基礎学力の定着及び学科特有の資格取得と技能の育成 (2) 特色ある授業の実践	①生徒の進路志望等に即した弾力的な教育課程の編成 ②学科間の横断的な指導及び交流を踏まえた総合選択制の効果的な運用 ③習熟度別クラス編成及び少人数制学習指導の推進 ④各種検定・資格の取得に向けた取組の推進 ⑤校内外における研修の推進	①生徒の進路志望に応じた選択科目・総合選択制について検討し、修正等を行った。 ②総合選択制では、学年や各教科の協力により適切な選択及び実践が行われた。 ③数学科・英語科で個別最適な指導を目指し、習熟度別や少人数制での学習指導を行った。 ④各学科において、有益な検定や資格の取得に向けて計画的な指導を行った。 ⑤SCによる生徒理解をテーマとした研修を実施し、教員の指導力向上を図った。また、教員用iPadの配付が完了し、ICTの活用が増加した。	A	・実習に取り組む生徒の様子が明るく前向きで、その受け答えや笑顔から大変良い雰囲気の中で授業が行われていると感じた。 ・課題研究等で各科の特色ある活動や取組が行われているとともに、その成果を外部に対して発信しているところが素晴らしい。 ・外部講師や外部団体との連携で各学科とも特色ある活動が展開されている。 ・現代の若者は常にスマホ・パソコンが身近にあり、考え方がデジタルに寄り過ぎていると実感している。自分で調べ、考え、表現することを大切にしてほしい。	・習熟度別や少人数制のクラス編成及びITを通して、基礎学力定着に継続して取り組む。 ・県内唯一の総合選択制のメリットを生かし、教科横断的な指導の工夫など、主体的・対話的で深い学びの実践を図る。 ・あおり創造学を軸として「総合的な探究の時間」及び「課題研究」の指導の中で地域連携を深め、探究型学習の一層の充実を図る。 ・来年度で全学年が新学習指導要領に移行することから、新教育課程について検証を行う。 ・ICT活用に向けた校内研修の更なる充実を図る。
2	(1) 挨拶・容儀・言葉遣い等の習慣化 (2) 自主性・自律性を育む指導の充実	①日常的な挨拶の励行・時間の厳守 ②定期的な服装容儀指導の実施 ③社会に適應できる態度の育成 ④教育相談の充実 ⑤生徒会活動の充実	①登校指導による声かけ等の継続的指導により基本的な生活習慣の確立が概ね達成された。 ②服装容儀指導において生徒が自発的に整える意識の定着を目指し、継続して指導する。 ③特別指導の少なさからも、生徒の規範意識や自律の精神が醸成されていると考えている。 ④SCの早期対応や教育相談委員会での情報共有を通じて、指導の充実が図られた。 ⑤生徒主導の生徒会活動を促し、活気ある生徒会行事が実施できた。	A	・例年のことであるが、元気で爽やかな挨拶をしてくれる生徒が多く、とても印象が良い。 ・問題行動も少なく、SNSを通じた犯罪等が多い現代において、メディアリテラシーの重要性が生徒にしっかりと伝わっていると感じる。 ・学校行事の活性化など、コロナ禍における自粛の弊害を取り戻そうとする努力が感じられる。 ・現代の子供達には、自己肯定感・自尊感情・他者からの助力を引き出す精神的自立が必要であり。今後も生徒の心に寄り添う指導を継続してほしい。	・正しい判断や行動選択を促す指導を継続し、その意味を伝えながら社会性を身に付けさせる。 ・分掌と学年の連携を強化し、組織的活動及びそのつながりを実感できる指導体制を構築する。 ・生徒の学校生活の様子や面談等で得られた情報を共有し、全教職員による指導の充実に努める。 ・人間関係に不安を抱える生徒が増加しており、SCを効果的に活用し、生徒の心の成長を促す。 ・生徒会の主体的活動を促進し、生徒間の伝統継承の体制づくりを推進する。
3	(1) 一人一人の資質・能力・適性等を把握した個に応じた進路指導体制の強化	①進路ガイダンスや進路講演会の実施、企業や学校の見学会・説明会への参加奨励 ②進路資料室の開放、進路相談の充実 ③進路志望調査、進路情報交換会の実施 ④放課後や長期休業中の進路講習や公務員講習の実施、面接・小論文対策講座の開催	①進路実現に向けて進路意識の高揚を図り、主体的な進路選択ができるよう促した。また、就業体験にも取り組んだ。 ②多様な進路に関する情報提供を行った。 ③生徒一人一人の資質・適性・能力に応じた進路志望実現に向けて助言・指導を行った。 ④受験に対応できる学力の養成に全教員で取り組み、進路志望実現に努めた。	B	・地元企業からは、弘実生は挨拶がしっかりして人あたりも良く、大変評価が高い。地域における活躍に大きな期待が寄せられている。 ・現代は感情のコントロールや適切な自己表現ができない子供が明らかに増えている。社会人として、笑顔とコミュニケーション能力は大切なものであり、人間関係を構築するために欠かせないものである。教育活動を通して、今後も継続的な指導をお願いしたい。	・進路の早期決定に向けて学年・学科・部活動の情報共有や連携を更に強め、生徒一人一人に寄り添った指導を実施する。 ・進路ガイダンスや企業説明会を通して望ましい職業観・勤労観の育成やキャリア教育の充実を図る。 ・的確な進路情報の収集及び提供に努める。 ・継続的に整備してきた外部講師による公務員講習の一層の充実を図る。
4	(1) 部活動のさらなる活性化	①生徒の力を十分に引き出すための部活動の環境整備の推進 ②競技力向上を目指した取組への積極的な参加	①グラウンドの設備補修や生徒会館(宿舎)のエアコン設置など、環境整備に努めた。 ②科学的トレーニング方法の積極的な導入に努めた。今年度は部活動加入率が87.1%から84.8%に下がった。競技成績も低下傾向にある。	B	・部活動は弘前実業高校の大きな柱だと考えている。運動部・文化部どちらも常に工夫しながら生徒を大事に育て、引っ張ってほしい。 ・部活動の活性化は、積極的な生徒指導につながる重要な要素であると考え。引き続き指導をお願いしたい。	・部活動指導において、その意義や本質を指導者・生徒が理解した上で本校の特色を打ち出す必要がある。他者と協調して活動する姿勢や困難を克服する力、目標に向かって共に支え合う心を育成する本校の基本方針を再確認して、今後も指導を進める。

(11) 総括	学習指導においては、基礎学力の定着を目指して習熟度別や少人数制のクラス編成及びTを実施し、生徒に寄り添った個別最適な学びに取り組んでいる。更に、ICTを活用して興味・関心を引き出す創意工夫のある授業を展開し、主体的・対話的な深い学びを実践している。また、あおり創造学を軸として、「総合的な探究の時間」及び「課題研究」において地域社会と連携しながら課題の発見・解決に向けた探究型学習の充実を図り、その学習成果を外発信することで、生徒の意欲向上や魅力ある学校づくりを推進している。 本校は3部5学科を有し、興味・関心の異なる多様な生徒が在籍する総合専門高校であり、教育目標達成に向けて同じ意識・方向性を持って教育活動を推し進めるためには、しっかりと生徒指導が共通の土台となる。学年・分掌及び部活動の連携を強化して生徒理解に努め、個々に応じた組織的な生徒指導体制を確立するとともに、生徒自身が自ら正しい判断や行動を選択できる社会性や自律性を育む指導を継続していきたい。また、この活動の成果が生徒の多様な進路希望の達成につながっていると考える。 本校は、今まで学科における専門性の探究及び部活動における調和のとれた人格形成を教育の柱としてきた。今後も全教職員が専門職としての自覚と誇りを持ち、専門的な学習や実践的な活動を通して生徒一人一人の可能性を陶冶させ、人間性豊かで社会に貢献できる人材の育成を推進する。
---------	--